

王子保小学校の学習の力 平成 27 年度 4 月全国学力学習状況調査から



4月に6年生を対象とした、全国学力・学習状況調査が行われ、9月にその結果概要が公表されました。福井県は、これまでに引き続き、全国トップレベルの結果となりました。

本校の児童については、国語・算数・理科の3教科ともに、概ね福井県の平均レベルで、全国平均より数ポイント良い結果でした。昨年12月に行われた福井県の学力調査（SASA）の結果も参考にしながら、本校児童の傾向について分析を行い、良かった所はさらに引き伸ばし、苦手だった所には対策を立て、これからの学習等に活かしていきます。

【国語の力】

主として知識を問うA問題は、全体的に良くできていました。ただ、正確に漢字を書いたり、主語述語の文型の種類を区別したりする「言語についての知識・理解」の領域には課題があるようです。昨年のSASAでも同様な傾向がありました。

主として活用力を問うB問題では、新聞を扱った問題での記事の割り付けの工夫や見出しの選択などは良くできていました。新聞を使ったスピーチなど普段からのNIE学習の成果だと考えられます。一方で、音読するときの工夫について、理由を入れて80字程度の文章で表現する問題では、正答率が低くなっていました。その他の80字程度の文章で答える問題でも、無回答率が高くなっており、文章を書くことに抵抗を感じている児童がいるようです。

〈対策〉

- ・国語の学習の時間だけでなく、普段から「既習漢字は漢字で書く習慣」を身につけることが必要です。日記や連絡帳など毎日の「書く活動」の中で定着させる工夫をしていきます。
- ・これまで継続的に、難しい言葉が出てきたら手元にある辞書を使って調べる習慣づけを行ってきました。今後も、故事成語や四字熟語、ことわざなどについて調べる機会を増やし、スピーチなどで調べた言葉を使って伝え合う活動を増やします。
- ・長文を書くこと自体に抵抗のある児童に対しては、まずは、一つの条件を満たした文章を短い文で表現する練習を増やし、つなげていく取り組みをしていきます。



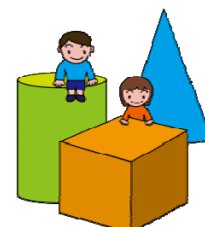
【算数の力】

主として知識を問うA問題では、計算を中心に正答率が高く、よくできていました。昨年のSASAで課題のあった、位の違う数値の加減法も今回は改善されていました。しかし、180度を超えた角度を分度器から読み取ったり、立体の見取り図から展開図を考えたりする図形領域は、引き続き課題がありました。

主として活用力を問うB問題では、単分量や割合といった児童が比較的苦手とする問題で、高い正答率となり、よくできていたといえます。一方で、図形の特徴を使った作図の仕方や面積の根拠を説明する問題での正答率が低く、A問題同様、図形に関する問題に課題がありました。また、解き方や理由を、算数的用語を使っただけに表現することも苦手のようです。

〈対策〉

- ・「図形」領域の学習では、教材などを活用して操作活動を積み重ねていきます。
- ・算数では筋道を立てて、一つ一つ課題を解決していく力が必要ですが、本校の児童は、その過程で根拠や裏付けを意識せずに回答してしまう傾向があるようです。「算数的用語」を使って解き方を説明し合うペア学習を取り入れたり、振り返りで学習



したことが日常的な生活の場面にどのように活用されているか考えさせたりするようにします。

【理科の力】

主として知識を問う問題では、正答率が高くよくできていましたが、答えの理由を説明するなどの活用力の問題で正答率が低くなる傾向がありました。基本的な知識は身につけてきているので、今後は、さらに科学的な思考・表現の力を高めていくことが必要となります。



〈対策〉

- ・これからは科学的な思考や表現の力が求められる社会になっていきます。自分の体験や実験で見つけたことを、絵でまとめたり、自分の文章で表現したりする機会を増やしていきます。
- ・基本的な知識や理解した事実を使って理由を述べるなど、話し合いをしながら高め合いのできる学習に取り組みます。

【学習・生活の様子について】

学力調査に合わせて学習や生活の様子についてのアンケート調査が行われました。全国や県の結果と本校の児童について比べてみて割合の差が大きかったのは以下の項目でした。



【ポイントが高かった内容】	【ポイントが低かった内容】
<ul style="list-style-type: none">・朝食を毎日食べている。・毎日同じくらいの時間に寝ている。起きている。・将来の夢や目標を持っている。・家に帰ってから、復習や予習など学習する時間が長い。・今住んでいる地域の行事に参加する。・新聞や本を読んだり、ニュースを見たりしている。・授業でわからないことがあったら、先生、友達、家の人に尋ねて解決する。・理科の授業がよくわかる。	<ul style="list-style-type: none">・自分には良いところがある。・学校に行くのは楽しい。・学級会などで、友達と話し合っって学級のきまりなどをきめている。・地域や社会をよくするために、何をすべきかを考えることがある。・総合的な学習の時間に、自分で課題を立てて情報を集め整理し、調べたことを発表している。・授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行った。・ノートに、学習の目標とまとめを書いていた。・将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思う。

規則正しい生活を送り、学習に対して真面目に取り組み、読書やニュースなどで見聞を広めようとする児童が多いことはうれしいことです。将来の夢に向かって努力していたり、わからないところをそのままにしないで解決しようとしたりする様子も伺えます。家庭では、子どもたちが課題に真面目に取り組むように、保護者の方々がご協力いただいていることもわかります。「落ち着いた学習態度」や「家庭の協力」が、学力全国トップレベルのポイントとされていますが、まさしくその通りの結果になっています。

しかし、ポイントが低かった内容を見ると、自己肯定感が低かったり、話し合い活動や課題解決型学習が少なかったりと課題もうかがえます。学校では、これらの結果を真摯に受け止め、子どもを褒めたり認めたりする場面を増やし、少人数での話し合い活動や探求的学びが展開できるような授業改善に取り組んでいきたいと思ひます。

